

## 基地問題等調査特別委員会会議録

### 招 集

令和3年7月6日（火）午前10時 議場

### 出席委員（8名）

（委員長）矢 倉 強 （副委員長）門 脇 一 男  
安 達 卓 是 遠 藤 通 岡 田 啓 介 岡 村 英 治  
田 村 謙 介 前 原 茂

### 欠席委員（0名）

### 説明のため出席した者

伊澤副市長

【総合政策部】八幡部長

[地域振興課] 毛利課長 山内課長補佐兼自治振興担当課長補佐 藤堂担当課長補佐

### 出席した事務局職員

松下局長 土井次長 瀬尻局長補佐兼庶務担当局長補佐 田中庶務担当係長

### 傍 聴 者

石橋議員 戸田議員 又野議員 三嶋議員 森谷議員 渡辺議員  
報道機関 3社 一般 9人

### 報告案件

- ・航空機の部品欠落について

~~~~~

### 午前10時00分 開会

○矢倉委員長 ただいまより基地問題等調査特別委員会を開会いたします。

本日は、当局より航空機の部品欠落についての説明をさせます。

当局の説明を求めます。

八幡部長。

○八幡総合政策部長 そういたしますと、令和3年5月13日に発生をいたしました航空機の部品欠落について御報告をさせていただきます。お手元の資料に基づいて御説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

まず、概要でございます。詳細につきましては、別紙1の資料に書いてございますが、繰り返しになりますが、発生日時につきましては、令和3年5月13日木曜日、午前8時29分から午前9時31分の間に発生したと。欠落部品につきましては、右主脚扉スプリング（ステンレス製）直径約4センチ、長さ50センチ、重さ約1.5キロのものでございます。具体的なものの写真につきましては、別紙3の4ページにその実物の写真というのが載せてありますので御確認いただければと思います。

続きまして、主な経過について御説明をさせていただきます。まず、発生5月13日ですが、美保基地のほうで翌日の飛行に向けた飛行前の点検において、要は部品の欠落を確認されたということでございます。そして、私どものほうには5月13日の21時48分

に、部品の欠落があったということを美保基地さんから第一報を受けたということでございます。そして、ここには書いてございませんけども、5月14日の深夜2時でございますが、美保基地のほうからマスコミさんに向けて、この部品の欠落についての報道をされたというふうに伺っております。そして、翌5月14日でございますが、9時30分、これは別件で、ちょうど市長が美保基地に行かれる用事がありまして、その際に基地の司令より報告、そして陳謝を受けたということでございます。同じ日の17時でございますけども、美保基地の監理部長及び渉外室長が本市に来訪されました。改めて陳謝及び状況説明等を受けたところでございます。これは私のほうが対応させていただいております。そして、その場で同機の飛行については再発防止策が整うまで自粛をすると、そういう申し出がございました。その日にちょうど、美保基地に対して、原因究明と安全対策の徹底について申入れを行ったところでございます。これにつきましては、議会及び地元の方々にも報告をさせていただいております。それにつきましては、別紙2を見ていただければと思いますが、前回の部品落下で議会のほうから御指摘をいただきましたことを踏まえまして、このたびの申入れにつきましては、市長名で、司令に対して、少し強い口調での申入れをさせていただいたというところでございます。次に、令和3年5月24日、10日ばかりたったところですが、美保基地のほうから連絡がありましたので、私と地域振興課長、担当課長補佐で美保基地のほうを訪問しております。それで、同じく鳥取県と境港市とともに訪問させていただいたわけですが、その場で、その推定原因及び再発防止策について説明を受け、その実機について、私どももきちんと確認をさせていただいたというところでございます。これにつきましては、別紙3に美保基地からのそのときの説明資料というのを付けております。そして、その日に議会及び地元のほうにもそういう確認をしましたという報告のほうはさせていただいたというところでございます。そして、5月26日でございますけども、鳥取県が、美保基地に対しまして、飛行再開における安全対策等について申入れを行い、そして、翌5月27日に、美保基地より本日の午後から飛行再開する旨の連絡を受けたということでございます。以上が主な経過でございます。

そして、3番目の美保基地による再発防止策でございますけども、これにつきましては、別紙3の4ページに具体的な対策というのが書いてあるわけでございますが、一応写真があります。別紙3を見ていただいたほうがよろしいかと思っておりますので、それに基づいて説明を申し上げます。まず、対策についての一番目、触手による動作点検の追加ということでございます。これにつきましては、スプリング部を飛行前後に手で触り、ロッド・エンド、ロッド・エンドとは何かといいますと、推定原因のところの上を見ていただければ、ロッド・エンドというのが書いてございます。それでございますけども、ロッド・エンドとそれを支える部位の間に通常よりも強い摩擦が生じていないかを確認する点検を追加するということが、まず一番目。そして、このロッド・エンドへの潤滑剤の塗布。グリースを塗布し、潤滑性能の低下を防止するというものでございます。そして、また、当該部品の欠落防止対策として、もしそういうところにこのような場合が起きたときにおいても、スプリングの両端にワイヤーを巻き付けて、スプリングの欠落を防止する。これが、防止対策ということで説明を受けたところでございます。そして、最後になりますけども、このたびの対策については、メーカーのほうと、当然協議をした上での対策ということでございますが、引き続き機体製造会社において、詳細な調査を実施し、調査の結果に基づき

適切に対応するというこの報告を受けております。以上が航空機の部品欠落についての報告でございます。

**○矢倉委員長** 当局の説明は終わりました。

順次、委員の皆様の発言を許します。質疑、意見を述べてください。

前原委員。

**○前原委員** C-2に関しては2度目の事故というか、欠落事故という形になるんですが、前回は、確か美保基地のほうから説明員が来られたような気がするんですが、今回来られないのはなぜなのでしょう。結構重大な事案だと思うんですけども。その説明をお願いします。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 前回は議会に対しては説明にはいらっしゃってないというふうに認識しておりますけども、ただ委員さんがおっしゃられますように、今回の事故は、私どもも非常に重大だという認識は持っております。一応、今回の事案は、国土交通省の運輸安全委員会の調査対象とはなっておらず、飛行上の安全に関わる案件ではないということでございます。しかしながら、委員さんがおっしゃられますように、今回の事案は私どもといたしましては非常に重大であるというふうに考えておまして、当然航空機等の配備に当たっては、これまでも地元の協議の中で安全対策の徹底、これを条件としているところでございます。よって、私どもといたしましては、早急な原因追求と再発防止策に向けた安全対策の徹底を申し入れたところでありまして、その結果、しかるべき安全対策を措置されたということで伺っておるところでございます。以上です。

**○矢倉委員長** 前原委員。

**○前原委員** 令和2年2月12日に、参考人として美保基地から監理部部長、井上様、監理部渉外室室長、酒井様、基地担当専門官、大石様という形で資料があるんですけど、来て説明してませんか。確認をお願いします。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** ちょっと確認をさせてください。前回の件ですよ。

**○矢倉委員長** 前原委員。

**○前原委員** 令和2年2月12日、基地問題等調査特別委員会報告案件「航空機の部品等落下について」ということで委員会を開いてまして、そのときに参考人で来られてます。私も質問したと思います。そのときは確かピンの破損による部品の落下だったんだと思います。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** すみません。私の記憶も曖昧なところがありますので、後できちんと確認をさせていただいて、また御報告させていただきたいと思います。

**○矢倉委員長** 前原委員。

**○前原委員** それは幾ら何でもおかしいと思いますよ。前回は約200グラムのものが落ちたという形だったんですが、今回1.5キロでしょ。これおかしいでしょう。どれだけ重大なことかっていうのを、ちょっと当局は認識してないっていうふうには思うんですけども。この件に関して副市長のほうからお答えをお願いしたいと思います。

**○矢倉委員長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 先ほど八幡部長のほうからもお答えしたとおり、あるいは今、前原委員からも御指摘があったとおり、今回の事案について我々、重大な問題だというふうには認識しております。基地から来ないのはなぜかという御質問であります。これは議会に対して、我々当局のほうから説明するというので、本日、基地のほうに特段要請していないというのは、これは事実であります。そこのところは、なぜなのかというふうにおっしゃると、一連の対応を一通り終えているということから、そこまでの必要性はないんじゃないかなという判断をしたというのが事実であります。改めて基地のほうから説明が必要だという議会の御指摘、もちろんそういう認識だということであれば、それも含めて対応は検討させていただきたいと思えます。以上です。

**○矢倉委員長** 前原委員。

**○前原委員** このC-2というのを配備されて、そんな日もたっていないような気がするんです。これ2回目の事故ということで、今回は非常に大きなものです。多分飛行機の高さから落ちたとしたら、どの時点で落ちたか分かりませんが、もし民家に落ちたら大変重大な事故になってる可能性もあったということなんだと思うんですけども、それに対して当局が、専門的な知識を持って我々の疑問に対して答えられるかどうかという、私はそうではないと思うんですけども。今回に関しては、やっぱり呼ばなければいけなかったんじゃないかと私自身は思ってますし、今日は来てるんだと思って私も質問しようかなと思ってたんですけども、非常に残念だなあと思えます。これは私の意見ですけども。はい、以上です。

**○矢倉委員長** 岡村委員。

**○岡村委員** 私も、今回の事案の重大性というものを、どの程度認識されていらっしゃるのかなというふうに本当に疑問に思いました。C-2を配備されて間もないということですけども、C-2配備はいつから始まって、現在10機配備されてると思いますけども、いつからですか。そして、今回欠落事故を起こした機体は、いつ配備されたものなのかというのを把握されていらっしゃいますでしょうか。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 今回の機体については、年月まではちょっと記憶にはありませんけども、当初の段階で配備されたものというふうに伺っております。

**○矢倉委員長** 岡村委員、いいですか。

**○岡村委員** はい。

**○八幡総合政策部長** また御報告させていただきたいと思えます。

**○矢倉委員長** 岡村委員。

**○岡村委員** 結局、質問とか、私たち、本当に住民の安全を守るためにいろいろお聞きしなければならぬことっていうのは、たくさんあると思うんですよ。それに対して的確にお答えができないという状況っていうのは、この委員会に対しての、本当に言わば、軽視と受け止められても仕方ないんじゃないかなというふうには私は感じます。本当、まだまだ配備されて10年もたっていないんですよ。4、5年ぐらいのもんだと思います。そういう状況にあるのにもかかわらず、欠落事故を起こすということ。それもロッド・エンド。それが折損したというふうなところが、この資料で明らかになってるわけですけども。本当に配備されて間もないというのに折損事故を起こすということについては、明らかに部品

の強度不足、構造的な欠陥があるんじゃないかというふうに思わざるを得ないんですけど、そこらへんはどういう認識で、今どういう調査をやっているのかお伺いします。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 今回の部品の摩耗。その認識については、私どもも委員さんと同じ認識しております。一応、別紙3のほうに書いてありますが、この実際の部品の強度云々につきましては、美保基地でもなかなか調査ができないということでございましたので、機体製造会社において詳細な調査を、今、実施されているというふうに伺っております。この件につきましては、防衛省の本省がそのメーカーと直接にそういう調査をされているというところを、今、伺っているところでございます。

**○矢倉委員長** 岡村委員。

**○岡村委員** ぜひ、その調査結果が出た段階で、私たちにも、議会にもやはりお示しいただきたいということを要請しておきたいと思えます。それで、本当に開発を急ぐあまり、配備を急ぐあまり、このロッド・エンドに限らずほかの部品にも構造的な欠陥があるんじゃないかというふうに思ってしまうわけです。これに限らず全ての部品の強度、そういったものについて、やはり再点検すべきではないかというふうに私は指摘しておきたいと思えます。そして、この欠落したスプリングですけども、これはまだ見つかっていないでしょうか。どこに落ちたのか。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** まだ、見つかったという報告は受けておりません。

**○矢倉委員長** 岡村委員。

**○岡村委員** まだ、どこに落ちたのか分からないということなんですけども、資料の別紙1の裏面のほうに飛行経路というふうなところが地図で落としてあるわけですけども、言わば、ひょっとしたら、民家の上へ飛んでったときに落ちた可能性も否定できないということになるわけですよ。幸いそういう報告がないわけですから、そういうことはないと思えますけども。しかし、そういう可能性だってあったということなわけです。本当に、この飛行経路の下には、保育園や学校なんかもあるというふうに思えます。そういうところに何か、1.5キロもの物が落ちるということについては、本当に住民の方々というのは心配ではないかというふうに思えます。ですから、私たちも、安全性がしっかり、こういったことについてまだまだ検証しきれていないという段階においては、少なくとも当面は、こういう住宅とか学校などの上空は飛行経路から外すと、訓練経路から外すということについては、私たち議会としてというか米子市として、住民の安全を守っていくといった観点から、当面見合わせるべきだというふうに申し入れるようなお考えはありませんでしょうか。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** まず、C-2の飛行自体を自粛すべきかという御意見につきましては、このたびの事案に対する推定原因及び再発防止につきましては、先ほども説明させていただきましたが、5月24日の日に県、境港市さんとともに安全防止策について説明を受けるとともに、私どもといたしましても、安全防止策を処置済みの時期、それを確認させていただいたところでございます。自粛につきましては、一応、美保基地からの説明によりますと、所要の点検及び安全が確保されたことについて、やはり周辺自治体に説明し

た後に解除するということを伺っており、その結果、5月27日からの飛行ということで、再開を受けたところでございます。そして、先ほどの市街地の飛行、いわゆる場周経路ですけれども、避けるべきということでございますけれども、この美保基地につきましては、いわゆるこの場周経路、場周経路といいますのは、要は着陸する航空機の流れを整えるために滑走路周辺に設定された飛行経路でございますけれども、これが設定されているところから、現時点ではちょっと、市街地上空の飛行は避けられない、そういうものであるということをお伺しております。

**○矢倉委員長** 岡村委員。

**○岡村委員** こういった経路をたどっていかなきゃいけないということっていうのは、私は本当に住民は不安でたまらんというふうに思います。少なくとも、日本海のほうに飛び立って日本海上空で訓練するというのなら分かりますけれども、民家の上空で訓練するというのは、例えば、今、対応を取っておられますけれども、スプリングが落下しないようにワイヤーでくくっとするということなわけです。そんな言わば付け焼き刃のような対策で、本当に大丈夫なのかというふうに思わざるを得ません。そういったところは、よく、また美保基地のほうに要請していただきたいというふうに思います。これは私の意見です。以上です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。

**○矢倉委員長** 安達委員。

**○安達委員** 先ほど来、各委員からも言われていますが、自分も今日、美保基地の担当部長なり、監理部長なりが来ておられるかなと思って臨んだんですが、それはおられないということです。何点かお聞きしたいんですけども、担当のほうから回答をいただきたいんですが。今回5月13日に、輸送機から落下したケースですけども、伊木市長から文書で基地司令に安全確保の申入れをされて、文書提出をされていますが、これに対して基地なり、回答はどのようになったのか。文書回答がありましたとか、そういうのがちょっと資料的にも見当たらないんですけども、どういう対応を取られたかをまず聞かせてください。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 私どもの申入れにつきましては、これはお手元の資料につけております。5月14日の日に、申入れをさせていただいてございます。同時に、米子市だけでなく、当然、鳥取県、境港市、あと隣県の島根県、安来市さん、松江市さんも同じような申入れをされたというふうに伺っております。これについて、現在文書による回答は頂いてはおりませんが、一応美保基地さんからも、安全確認を行ってそういう点検をさせていただきましたということで私どもに連絡がありまして、その結果、5月24日の日に、美保基地を訪問させていただいて、そこで推定原因及び再発防止策について、これは鳥取県、あと境港市とともにですけれども、説明を受けさせていただいたところでございます。同様に、島根県についても同じような説明の場を設けて、きちんと美保基地は説明をしたということをお伺しております。

**○矢倉委員長** 安達委員。

**○安達委員** やり取りのことを今言われたですけども、やっぱり文書回答は頂きたいなと。内容も含めて、これこれこういうことで今後はこうしたいという文書回答は、頂いて判断されるべきではなかったかなとは思っています。それが今までないということなので、そ

れを受けて今日の日まで来たんだろうなと思ってます。それと、先ほど私の前に二人の委員さんからもそれぞれ意見がありましたけども、今、C-2は10機配備されてると思っています。10機というのは、かなり多い機数だなとは思いつつ、今後もこのC-2のほかにも、この間、基地に勉強に行かせてもらったんですけども、KC-46Aも今後予定もあるし、それから双発のヘリも配備されているわけで、空を飛ぶ状態がいろいろ機数も増えていきます。そういう中で、常に基地の周辺の、我々もそうですが、首長はこういった機体が空を飛んでいるさまを知っておられるわけですから、空の安全を十分確保するという機体整備も含めて、安全点検の徹底というのをどのように考えておられるか、ちょっとそこを聞かせてください。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 機体の安全点検につきましては、これまでも私どもとの話の中で、この安全対策については徹底、これが、要は条件になっているところがございますし、あと基本的に、美保基地の航空機だけではなく、ANAの旅客機にしても同じことだというふうに、私は認識をしております。そういうものにつきましては、安全対策は徹底されなければはならないと。そこは委員の皆さん方と同じ思いであります。

**○矢倉委員長** 安達委員。

**○安達委員** 民航のことも言われましたですけども、私、昨日は夕方6時半頃ですか、ちょっと畑に用があって出かけておって、ちょうど昨日は曇天でしたので、機体もかなり低い高さで飛んでたなというのも見させてもらいました。そうすると、機体がC-1よりはるかに大きくなってますから、かなり低空なのかどうか分かりませんが、大きく見るとやっぱり威圧感を感じるころはあります。確かにC-1よりは騒音とかはないですけども、やっぱり空を飛ぶ限り安全確保はやっていただきたいし、それを常に思っています。それで先ほどほかの委員も言われましたが、人家っていうのはありますけれども、人家、もちろん危険を避けていただきたいが、海上だって船業の人もおられるわけですし、そこは同じ安全確保を、人命も含めて保っていただかなければならないと私は思います。いろいろな形で海に出ておられる方もありますし、海岸近くで生活を営んでおられる方もあるわけですから、そこは陸上・海上を問わず、安全対策の対応を非常に心がけていただければと思います。今回、るる経過が説明されましたが、ヒューマンエラーという避けられない部分もなくはないと思うんです。車だって点検を十分しても、やはり事故ったりすることもあるわけですが、空は我々にとっては無防備ですので、そこを十分、飛ぶとき飛ばすときには整備、この間もそうだったのですが、格納庫がありますけれども、整備士の皆さんそれぞれ整備されると思います。飛んだ後と飛ぶ前の点検は十分していただいて、その後の安全確保を保っていただければと思います。住んでいる側は常に安全をと思いつつ、祈るしかないときもあります。自治体も責任を持って基地に、当然取るべき対応策を申し入れていただきたいということを重ねて要望しておきます。以上です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。前原委員。

**○前原委員** すみません、再度なんです。今、安達委員の質問の中で、文書で抗議をされたという形であったんですけど、前回は確か八幡部長の名前で出されていると思うんですけど、それに対して司令のほうから回答が来ってますよね。今回、来てないというのはなぜですか。前回、令和元年12月12日付で、八幡部長の名前で美保基地の監理部長宛

てに「自衛隊航空機の安全確保について（申入れ）」という形でされています。それに対して令和2年1月30日付で、米子市長宛てに美保基地司令から、それに関する回答が来ています。今回は回答が来てないんですけども、先ほどの説明とちょっと合致しないような内容だと思うんですけども、これに関して部長の見解をお願いいたします。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 文書による回答というのが実際になかったわけでございますけども、先ほどの答弁と繰り返しになります、このたびの私どもの申入れに対しまして、私ども以外のそれぞれの自治体の申入れに対しましては、美保基地としてはどういう安全対策を取ったのか、実際に実機で確認をしてもらいたい、そういうところでの説明というのを受けました。そこで、基本的に安全対策についての説明があったわけですし、それでもって一応県のほうといたしましても、私どもといたしましても、確認をさせていただいたというところがございます。そして、その確認をさせていただいて、実際に文書での回答というわけではありませんが、その場で別紙3の資料を基に確認をさせていただいたということは、先ほども申し上げましたけども、議会のほう、そして地元の皆様方にも、これはきちんと文書で連絡をさせていただいたところがございます。

**○矢倉委員長** 前原委員。

**○前原委員** 内容は分かるんですけども、これ文書で回答していただくというのは、かなり意味があることだと思いますし、司令の名前で回答が来るということは、非常に今後の安全対策に対して重きを置いているということは分かるんですけども、今回ないっていうことは、何かどうなのかなっていうふうには私自身は思ってしまうんですが。それは美保基地の考え方かもしれませぬけども、ここは確認されたほうがよろしいんじゃないかなと私自身は思うんですけども、いかがでしょうか。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 今日の委員会での皆さん方の御意見ということにつきましては、きちんと私のほうで、どういう議論があって、どういう御意見があったかということは、当然美保基地のほうに直接出向いて伝えたいというふうに思っております。その中で、その旨のことにつきましては、きちんとっておきたいというふうに思っております。なお、先ほどもお話をさせていただきましたけども、まだメーカーによる最終的な調査というのが終わっておりません。ですから私どもといたしましては、この件についての原因追及というのは、まだ道半ばであるというふうに認識しておりますので、この時点でそういう委員さんの意見があったということについては、きちんと伝えておきたいと思っております。

**○矢倉委員長** 前原委員。

**○前原委員** 前回、部長名で申入れを出したときに確か、この委員会かどうかちょっと分かりませんが、岡田委員のほうから市長名で出すべきだという御指摘があって、今回市長名で出されたと思うんですけども、それに対する回答がないというのに関しては、やはりちょっと私自身はこだわってます。回答というのは、責任のある立場の方がそのように実行するという約束をする意味での回答であり、公の文書であります。我々も公の文書で、市長名で出したわけですから、それに回答を求めるのは当然のことであって、それを遅くなりましたが再度回答を求めるべきであると私は思うんですが、部長の考えをお伺いいたします。



○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 私の考えというよりも、これは米子市の考えであるべきだと思いますので、そのあたりも含めて協議をさせていただいて対応させていただきたいと思います。

○矢倉委員長 よろしいですか。はい、ほかにございませんか。遠藤委員。

○遠藤委員 いろいろとこのやり取りを聞いておって、一つ気がついたことがあるんですけども、美保基地と米子市との間において、このような事案を含めて何かあったときに協議する場合には、基本協定とかいうようなものを結んでおられるんですか。それとも、ただこういう事案が起きたときのたびに話し合いをするんだということになるのか。基本的に基地に関わる問題について、こういう事案が起きたことを想定することを含めて、基地と米子市とが基本協定を結んでいるとか、そういうことにはなっていますか、なっていないか。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 こういう事案ごとに話をすると、そういうような基本協定というのを特に結んでいるという認識はありませんが、例えば今までの協定の中で、要は航空機の配備とかそういうものについては、いろいろ協議をするというものがきちんとそれぞれの時代で結ばれておりますので、当然こういうような事案がありましたら協定に関わらずきちんと協議をするというふうになっているものと認識しております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 機種の変更についての事前協議制というのは、これは結んであると思います。それらに係る同じような類いのもので、基地とのそういう協定というような事案というのがありますか。結んでいるような事案が。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 すみません、具体的にはちょっと。記憶の範囲内でお答えいたしますけども、先ほど遠藤委員さんが言われたような協定のほかに、例えば様々な協定というのを結んでいるというふうに認識しております。そして、先ほどの答弁の繰り返しになりますけれども、協定のいかににかかわらず何か今回のような重大なインシデント、そういうものがあったときには、当然協議をすべきものだというふうな認識しております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 その協定がいろいろあるとおっしゃるならば、一度それを議会に資料として提出してくれませんか。僕は機種の変更に関わる協定の問題については、よく記憶しております。だけど、その他の関係で、それぞれにおいて協定を結んでいるというような事案を議論した、僕、経験がないんですよ。だから忘れてしまっているのか分かりませんから。そういう美保基地と米子市が協議をするにあたっての協定というものが存在をしたら、それは委員会に提出してもらいたいということを要望しますから。約束できますか。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 はい、約束させていただきます。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 それでその内容が出てこない、これからお尋ねしようとするのと合致するかどうか分かりませんが、今回のやり取りを含めて聞いておって、やっぱり米子市と美保基地との間に、いろいろなことにおいてこのような基本協定を掲げるというものを、僕、

結ぶ必要があるんじゃないかと、こういうふうにこの議論の過程で思いました。それは何かというと、今部長の説明を聞いておると、あるときには文書で回答もらいますが、あるときには現地で説明を受けますよと。こういう使い分けが起こるようなことは、これは必ずしも正しい在り方ではないと私は思っています。そういうことも含めた中で、やっぱり文書のやり取りをして回答を得ることをすると、あるいは基地がちゃんと回答するとか、そういう物事を含めた扱いの協定もあってもいいのではないかと、私はそういうふうに思っておるわけで、できればそういうような基本協定を結んでいくということは、今後の基地問題を米子市はどう捉えていくかということに対しても、市政運営上からも極めて大きな問題だというふうには私は思っています。防衛省の言う中期防衛力整備計画というようなものが決まったら、それは100%みんな受け入れますよと、こういうような今のスタンスでいいのかどうなのか。私は郷土の平和ということを考えて、あの美保基地当初の歴史を考えたときに、なぜあのときにジェット戦闘機の配備は認めないよと、当時の市長が立ち上がったのか。こういう歴史というものを考えたときには、基地が強化されて、そして危険なまちがつくり上げられることについては反対するという姿勢なんですよ、あれは。そういうことを考えたときに、国の防衛政策だから意見は言いませんと、決まったことはみんな受け入れますと、こういうような状態のままで、今、これからもいくことが果たして妥当なのかどうなのか。ここらへんのところも含めて、美保基地とそれから防衛省と、この美保基地に関する米子市との基本的な協定を結んで、そういう基本協定の中における協議だというものの強い姿勢を示すべき状況にあるんじゃないかと、こういうふうに私は思っておりますが、これについて今は見解が出ませんでしょうけど。それらを含めたそういうような協定内容の検討を求めていると、こういうふうに私は思いますし、委員長、委員会としてもそういう観点でこれから特別委員会では審議をする課題をつくってもらいたいと。ましてや、もうあと任期が1年ほどでしょ。市議会議員の皆さんも、私も含めて。だから次の選挙に向けて、美保基地についてそれぞれ議会がどういうスタンスで臨もうとするかというぐらいな、選挙の争点になるような議論をぜひ深めてもらいたい。このことを委員長にも要望しておきます。以上です。

**○矢倉委員長** はい。ほかにございませんか。田村委員。

**○田村委員** 今回、スプリングが落下したということについて、対処がワイヤーをぐるぐる巻きにして落ちないからいいでしょうという話なんですけど、これどうなんですか。実際、このぐるぐる巻きにしたことによって、例えばそれがまた同じように同じ部分が脱落して落ちなかったと、で、そのまま基地に持って帰った。無事着陸したよというその状況というのは報告あるんですか、そういう場合。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 今回は、今、委員さんが言われたのは、最終的にそういう危険性がある場合にワイヤーを付けるということで。その前の対策として、資料でも説明させていただきましたけども、触手による動作点検の追加、あとロッド・エンドでの潤滑剤の塗布という行為があるわけでごさいます。そして、なおかつこの金属の摩擦、いわゆる摺動抵抗とそういうふうには書いてありますが、それが原因でという、あくまでもこれ推定ですけども、推定原因がある中で実際にはそういうことを、今現在メーカーにおいて本省のほうでもかんで調査をしているというふうに伺っております。当然、先ほど田村委員が言われ

たような、仮に今回と同じような事案で、ワイヤーで、例えばそれが助かったよというようなことがあれば、当然これは報告をしていただかないとならないと思いますし、というふうに考えております。

**○矢倉委員長** 田村委員。

**○田村委員** もちろんそれはしていただかないといけませんし、根本的な対処というのは今後メーカーでされるということなので、この部品ごと差し替わるというのは今後あるんだろうと思うんですけども、やはりそこの部分の事案がまた発生したということに対して、今部長は、当然それは報告があるべきだというふうにおっしゃっていただいたんですけども、それを本当にしてくれるのかなというのは、私は疑問なんですよ。結局、あの基地の中で、実際民家に迷惑をかけたかどうか、そういうことはなかったということに関してのインシデントに関して、やはりそこはしっかりと言うべきだというふうに、まず私は思います。これは意見です。それと先ほど、今回説明員を呼ばなかったという判断をされたというお話がありました。冒頭に前原委員のほうから指摘がありました。それに関しての回答が、いわゆる前回呼んでなかったというような認識があった。もしそれが前回説明員呼んでないんじゃないかという認識を前提として、今回呼ばなかったとするならば、相当にひどい判断だと言わざるを得ない。こういう飛行機のインシデントも大変なリスクですけど、当局のその考え方が非常にリスクだと思います。それに関しての見解を伺います。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 私の説明が不十分だったかもしれませんが、今回は非常に大きな事故であると。これは私の説明の云々よりも、誰が考えたってそうだと思いますし、当然私も第一報で、深夜でしたけども、連絡が私のところにも入りましたけども、これはえらいことになったなというところで、次の朝からたまたま市長が司令と会う機会がありましたけども、その際にもちゃんと報告いたしましたし、各委員さんにもすぐ朝一番に私のほうが直接連絡をさせていただいたと思います。それぐらい今回の事故につきましては、担当部局といたしましては、本当に重大なインシデントだという認識でおることだけはきちんと申し上げておきたいというふうに思います。今回、なぜ説明がなかったのかということにつきましては、一応その旨の意見はきちんと私のほうで美保基地のほうに持っていきたいと思っております。ただ、全体の話で見ますと、あくまでもこれは美保基地さんでの話でございますが、部品落下のことについては、やはりできるだけマスコミの方々に早めにまずきちんと説明をする。そういうようなところで対応されているというところでございますけども、やはり個々の議会で、米子市議会では特に皆さん方からそういう要望があったということは、きちんと私のほうで伝えたいというふうに思っております。

**○矢倉委員長** 田村委員。

**○田村委員** 分かりました。最初の初動の態勢のときに、八幡部長から電話あったのも知ってますし、相当にお怒りだったというのは私も理解はしています。しかし、今回のこと、説明員の来る来ないということに関しては、本来向こうから来させてくださいって言うのが本当だと思うんです。これに関しては、酒井室長のほうに、私、直接電話で確認したいと思っておりますけれども。そういうことが、もしですよ、米子市として「いや、来なくていいんじゃないですか」というようなやりとりがあったとするなら、これは大変なことだと私

は思っています。これは確認をさせてもらいます。よろしいですね。はい、以上です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。岡田委員。

**○岡田委員** 今の、るる様々な委員から意見が出ましたけれども、これ、今部長のほうはこの議会の話を聞かれて、部長が美保基地に行かれて説明をするということだったんですけれども、それであれば、先ほどから話が出ているように、部長が議会の意見を聞いて美保基地のほうに行かれるのであれば、美保基地の方がここに來られて、直接委員の意見を聞くという場を設定されたほうがよかったというふうに思うんですけども。副市長の見解をぜひ聞きたいと思います。

**○矢倉委員長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** もちろんそのように思います。ただ一つちょっと誤解があるのかなっていうのはありますので、一言申し上げたいのは、この案件について、この場面が最後だというふうに我々思ってこの場を設定しているわけではないということだけは、ぜひ御理解いただきたいと思います。大変あってはならない事故ではありますが、実際起きた事故について、先ほど八幡部長から御報告したとおり、初動の対応をさせていただいたということと、それから事故の特性上重大なものではあるけども、そのこと自体が飛行の安全性そのものに影響を及ぼすものではないということもあって、現在その飛行機は飛び始めてるといふ状況もあって、そういったような経過を、まずは委員会の皆さんに御報告させていただきたいということで、委員長とも御相談して、この場を設けさせていただいたこととあります。部品の強度の問題なのか、それともそれ以外の問題なのかというようなことも含めてメーカー側で調査中、そして最終的なその部品の改良等の対応も検討中だということとありまして、先ほど来言いました、向こうのほうから説明に來ないとか、あるいは來てもらわなくてもいいですというようなやり取りをした事実は多分ないと思います。私も全ての場面に同席はしてませんので、それをつぶさに確認はしていませんけども、最終的にこういうことでこういうふうな対応するんだということはきちんと基地側から説明があるべきだと思いますし、それからその際に委員さん方からの御意見をしっかり聞く場面というのは、当然設けるべきだと私も思います。ただ、そこに至るまでの一つの段階として、今日この場で発生当初からの対応の経過を御説明させていただいているというふうに御認識いただきたいと思います。以上です。

**○矢倉委員長** 岡田委員。

**○岡田委員** そのようにおっしゃいますけど、発生したのは5月13日、今日が7月6日ですか。2か月近くたっているということであれば、副市長、今部長がおっしゃったようにこの議会の意見を美保基地のほうに部長は持って行かれるんですよね。こういう意見が議会でありましたということ、いわゆる來ていただいて部長が報告するんじゃなくて、部長が美保基地に行って議会の意見がこういうのがありましたっていうのを報告に、部長が行かれるというふうに、今おっしゃいましたよね。それで間違いはないですか。

**○矢倉委員長** 八幡部長。

**○八幡総合政策部長** 美保基地のほうに報告するという事は、当然私が直接行くケースもあると思いますが、ひょっとしたらそういう話をしたら美保基地のほうに來られるというケースもありますので、それはどちらか分かりませんが、要は今日の議論についてこういう意見があったということはしっかりと伝えたいということとでございます。

○矢倉委員長 岡田委員。

○岡田委員 ひょっとしたらとかっていう話じゃなくて、議会の中の特別委員会できちっとした議論しているわけですから、美保基地のほうに議会の考え方をきちっと伝える必要があるってふうに思うのであれば、言い方悪いですけど、本来であれば部長が聞いたものを伝えるということではなくて、こちらに来ていただいて直接聞いていただくというほうが当然だろうと思うんです。当然、美保基地とこの米子市との関係というのは、友好的にお互いの信頼関係の中でやっているわけですから、現在も大変友好的な関係だというふうに、私は思ってます。ただ、こういった事案があったときに、様々な感情が出てきますんで、本来の、この米子市と美保基地との関係が友好的に、お互いにとっていい関係であり続けるようにやっぱりしていかなきゃいけないというふうに思うんですよ。そのときに、先ほど前原委員もおっしゃったように、文書で出したものは文書で返す。こういったことは一種の極引だと思うんです。「いや、話は聞いてますから」とかいう話ではないと思うんです。やっぱりそういったことの手続、これ行政ですから、きちっとした手続に対して手続で返す。そういうことはきちんと徹底をしていただく。部長の先ほどの思い、強い口調でおっしゃいました。私も大変なことだと思ってます。いや、それは分かるんですよ。その上でどういう行動を取っていくかということだと思っんです。そうでないと、一般の市民の方が不安に思っていること、こういったことで美保基地に対して不信感を持っていただかないようにすることも、当然必要だと思うんです。そのためにも、議会としてやらなきゃいけないことってというのはあるので、ぜひともそういったことを踏まえた上で、当局のほうも考えて行動していただきたい。副市長もこれで終わりじゃないとおっしゃったんですけど、もう2か月近くたってるわけですよ。我々もこれで終わりなんて思ってませんよ。これで終わりと思ってないけれども、市長のところには翌日に来てるわけですよ。それであれば、議会にも、もう2か月近くたつわけですから、来て直接説明をする。我々の意見を聞く。そういう場があってもいいというふうに思うから、今言わせてもらっっているんです。改めてどうぞ。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 先程の岡田委員の話の中で、ちょっと一つ誤解がありますので。5月14日、市長が基地司令より報告・陳謝を受けたというのは、司令がこちらに来られたということではなくて、たまたまその朝、市長と司令が会われる別の機会があっって、要は市長のほうに美保基地に伺った際にそういうインシデントがあっったという報告を受けたということでございます。それで、先ほどからのお話でございますが、今日、特別委員会のほうでそれぞれの委員さんが言われたことについては、きちんとしっかり私のほうに伝えていきたいというふうに思いますし、もし特別委員会でそういうようなことでの意見がまとまりましたら、それはそれでまたきちんと私のほうでお話をさせていただきたいというふうに考えております。

○矢倉委員長 ほかはございませんか。岡村委員。

○岡村委員 二度目になりますけども、発言させていただきます。先ほどから出てますように、やはり基地の責任者の方がこの特別委員会なりの席に来てきちんと説明していただくことの重要性っていうことがですね。私たちは反対してますけども、KC-46Aという、言わばこれまでの輸送機とは異質な危険性を持つ空中給油機が、配備、強行さ

れようとしてると、そういう状況の中で本当に住民の安全をいかに守るかっていうことがこの特別委員会にも一つ大きく課せられていると思います。そういった点において、来ていただくなり、そういう情報をきちんと共有していくということにやっぱり重きを置いていただきたいというふうに思いますけども、今後の在り方について、どういうふうにお考えでしょうか。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 先ほどからの答弁の繰り返しになりますけども、まずきちんと今回の皆さん方の意見については、私のほうでしっかり美保基地のほうに伝えたいというふうに考えております。そして、今日、委員さんからあった様々な意見につきましても、しっかりと私のほうで受け止めをさせていただきまして、今後の対応の参考にさせていただきたいというふうに考えております。

○矢倉委員長 岡村委員。

○岡村委員 この10月とかそのへん、秋にもKC-46A、新型空中給油機が配備、強行されようとしているといった状況についても、議会にも、特別委員会にもきちんとした説明をなさるべきだとかいうふうに思いますので、そういった点もぜひお伝えいただきたいというふうに要請しておきたいと思っております。

○矢倉委員長 ほかにございませんか。門脇委員。

○門脇委員 今日のこの「航空機の部品欠落について」の中で、5ページ、一番最後のページになると思うんですけど、今後の予定のところの(3)番についてちょっとお伺いしたいんですけど、このことについては今の段階では全く途中経過的なことも入ってきてないんですか、当局のほうには。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 はい。現時点では詳しい情報っていうのは、入ってきておりません。

○矢倉委員長 門脇委員。

○門脇委員 そうであれば、この調査結果がまとまったら、当局のほうにも、それから我々のほうにも多分説明するっていうことだと思いますけど、これっていうのは期限が切つてあるとか、いつまでに報告するとか、そういう取り決めというのはないわけですか。

○矢倉委員長 八幡部長。

○八幡総合政策部長 具体的な期限の取り決めはありませんが、私どもといたしましては早急に調査解明をしてほしい旨は伝えてあるところでございます。

○矢倉委員長 門脇委員。

○門脇委員 そうであれば、なるべく延ばし延ばしではなくて、本当に早急に我々も説明を受けたいと思っておりますので、当局のほうからもそういう要望をされてるんですしたらきちんとこれ説明を受けられたときに、先ほどそれぞれの委員さん言われましたけども、専門的なことになると当局のほうもなかなか答えができかねるっていうことが多いと思いますので、ぜひ調査結果が出ましたらそこらのあたりも協議していただきまして、できましたらというか、美保基地からも来られたほうが良いと思いますので、そういう交渉をされまして適切な処置をしていただきたいと思っております。以上です。

○矢倉委員長 田村委員。

○田村委員 すみません。2回目、申し訳ないですけど、一個だけ言い忘れまして。先ほ

ど、説明員で基地から呼ばなかった理由の一つとして、飛行の安全性に問題がなかったというお話がありました。それはおかしいと思います。市民の安全を考えていただきたい。要するに、飛行機の飛行の問題、安全性に問題がないということよりも、小さな部品であっても落ちてしまう可能性っていうのは今後もあるわけで、そういうことを言い出したら小さい軽微なものについては呼ばなくてもいいというようなふうにとられてしまいます。これはおかしいと思います。ですので、今後こういった軽微なものであっても、やはりこういう説明を求めたい。市民の代表として我々がいるわけですから、その代表として持った疑問に的確に答えるためには、しっかりと説明員は必ず呼ぶというふうにしていただきたい。これは要望です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。

それでは、今日は皆さん、大変貴重な御意見ありがとうございました。実は、当局に対しても、それから基地に対しても、私も長年になるわけですが、あまりにも隔世の感があると思います。そういう意味では、私は懸念を持っております。今日皆さんの御意見、非常にありがたく拝聴させていただきました。

以上で基地問題等調査特別委員会を閉会いたします。

#### 午前 10 時 57 分 閉会

米子市議会委員会条例第 29 条第 1 項の規定により署名する。

基地問題等調査特別委員長 矢 倉 強